

11月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和7年11月19日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 15時10分まで		
出席者	教育長	高森 賢一	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、遠田真央	
	参 与	丸山真二、池田元洋、岩佐正文、佐藤幸恵、岩切隆人、早瀬誠一郎、 吉田尚良、尾方農一、甲斐保孝、岡田健一、田中政秀	

◎ 開 会

高森教育長が開会を宣した。（13時30分）

傍聴希望者があったため、傍聴を許可した。

◎ 会議録の承認

10月22日（水）に開催された10月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎ 事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

- ・ NIE 研究会（南中学校公開授業／意見交換会）
- ・ 宮崎県市町村教育委員会連合会 県との意見交換会
- ・ 県統合型校務支援システム共同調達・運用協議会総会
- ・ 日向丸十両昇進祝賀会
- ・ 宮崎県都市教育長協議会第2回協議会
- ・ 義務教育学校設置に係る研究会（島野浦学園）
- ・ 若山牧水青春短歌大賞応募状況報告
- ・ 令和8年度当初予算編成に関する説明会
- ・ ジュニエコ in のべおか報告会、納税金贈呈式
- ・ 協調学習がっつなく自治体を超えたつながり（オンライン授業視聴）

◆教育委員より以下の報告が行われた。

宮田委員） 今回は2点報告をさせていただきたい。まず第1点は一ヶ岡小学校について。延岡市は脱炭素先行地域ということで、国の選定を今受けているが、その中で一ヶ岡エリアが選定されている状況の中で、一ヶ岡小学

校の子どもたちが、先日、11月16日の日曜参観のときに、自分たちの学習の発表を行うという情報をいただき、参観させていただいたので、その感想を申し上げたい。輪になるフェスティバルと題して、6年生による脱炭素まちづくりについての発表があった。脱炭素社会づくりに向けた学習であるとか環境問題、そしてSDGsを踏まえた取り組みなどで、総合的な学習での探求的な学習の中で、自分たちの住んでいる地域に生かしていけるかどうかというような具体的な目的を持った発表で、大変未来志向的な発表で面白い内容だったなあと考えた。ただ単なる未来志向的な発想ではなくて、具体的に日本の各地であったりとか、世界レベルにおいて、具体的にこういうことがもう実践されているんだというようなものをしっかりと調べた上での、自分たちの考えをまとめている発表だったので、大変具体的で夢のある面白い内容だった。脱炭素社会づくり学習の目的なのかもしれないが、実はその学習を通して私が一番感心したのは、自分たちの地域である一ヶ岡地域、その地域を住みよいまちにしていこうとする、郷土愛的な学習への広がりがとても感じられて、素晴らしい学習をしているんだなあとという感想を持ったところである。発表には地域の方はもちろん、市の脱炭素政策室の方も来られていたが、こうした地域とか行政との連携において学校教育が進められていくことはこれから大変大切だと思うし、こういった学校の取り組みは教育委員会としてもしっかりと支援していく必要があるのかなあと考えている。始まりで植えられたオリーブも大変順調に育っていて、私はオリーブが植えられているのを初めて見たが、柵づくりがしてあって大切に育てているなあとという雰囲気があってよかったと思う。2点目だが、11月18日（火）に、定例教育委員会の教育政策課の事務報告の中にも書かれているが、第2回ふるさとへのおかを知る体験研修というものが行われた。第2回目はむかばき青少年自然の家を使っての体験研修ということだったので、状況を少し見せていただいた。研修にもいろいろあると思うが、ただ単なる知識とか技能とか、そういったようなものを高める研修ももちろん大切だが、やはり体験を研修していくっていうようなところの目的は非常に意味があるのかなあと考えている。これは、聞くところによると新規採用された先生方が2校目の学校で延岡に来られた先生方ということでの研修で、体験を通しての研修ということで、大変先生方の表情も良く、初めての先生方もいたようだが、大変和やかな雰囲気で行われていた。様子を見ていて、やはりこういう研修があると、先生同士の繋がり、学校間もいろいろなので、先生方の繋がりもできるし、教育委員会の先生方との繋がりもできる。そしてまたお互いの情報交換できるツールが広がっていくのかなあと考えている。大変価値のある研

修を年2回計画されているんだなあというのを痛感したところである。ぜひ、次年度に向けても、こういう研修を続けていただけると、先生方にとっては大変良いんじゃないかなと思ったところである。

久世委員) 私は11月6日にA小学校を訪問させていただいた。ここは学校全体が25名という人数の少ない学校で、授業も複式で、同じ教室で5年生6年生がいて、そして先生が1人で、そして自習があったりして、そういうのを初めて見たので、この人たちが本当に全体的にいろいろ分かっているのかなっていうふうに不思議に思った。そういう学校が延岡にいくつかあるんだろうなと思った。でも、ものすごく静かに聞いている子どもたちもたくさんいたので、そこは安心したが、いつもこんなのかなってちょっと疑問に思ったら、いつもは少し騒がしいって言われたので、やっぱりなかなかなんだなっていうふうに思った。それとその中で、ちょっと障がいのある子どもさんが1人いて、出だしの20分間ぐらい、言うことを聞かずに、先生たちが苦戦しているのを見て、こういう大変なこともあるんだなというふうに思った。そのために、我々は中に入れなかったが、残りの時間は入っていいってことで入って、先生と対応しているときに、先生と自分との答えが合ったら、すごくいい顔をして笑っていたので、こっちが褒めてやったらちょっと見て笑っていたので、この子もやっぱりこういう子どもとしてみんなが認めて、みんなが温かく見たらこの子も良くなるんじゃないかなっていうふうに思った。そして、次は11月14日、北方学園に12月に講演に行く予定で、先生とその打ち合わせを行った。それが、何か保健委員って名前がつくということなので、講演の中にもそういうのを入れて欲しいって話をされたので、私は基本基礎が体を作ることがだと思うので、そこが一番大事だということが頭に入ったので、そういうふうな話をさせていただこうというふうに思った。後は今日の社会教育功労者表彰。たくさんの方が参加されていて、そして、やっぱりああいう表彰されるってことがすごく周りも嬉しいし、本人ももっと嬉しいんじゃないかなと思うし、生き生きとされていたので、これからますますまた頑張れるんじゃないかなっていうふうに思って帰ってきた。

遠田委員) 11月9日にB小学校の学校訪問に行かせてもらった。資料の中に大人も子どももわくわくする教育環境づくりという校長先生の目標があったが、それをまず目にして僕もちょっとわくわくしながら、その学校へ訪問に行ってきた。まず驚いたのは150年の歴史ということ。僕はサーフィンをしているので、150年前の波ってどうなんだろうってすぐそういうふうに考えてしまうが、やっぱり150年も続いているってことは本当すごいことだと感じたし、その校長室にあった校長先生の写真の数が

すごく多くて、歴史を感じた。その中でいろんな授業を見せてもらったが、C先生っていう70代の方の授業がすごい印象的で、子どもたちが言う事に一切否定もせずに受け入れて、それぞれの意見をすごい尊重している感じが、他の学校とか他の先生とかでもそういう感じにしている方はたくさんいるが、その先生のその対応の仕方がすごい他とは違う、すごい温かい感じがしたので、子どもたちもすごい伸び伸びしていて、聞いてみるとやっぱりC先生は教師の経験も長いし、男女共同参画会議のメンバーであったり、リバーパルで働いていたりして、いろんな幅広い経験をされているので、視野がすごい広いのかなと感じた。それを継承されるというか、それを若い先生たちが継承できる方法とかがあってほしい。それができるとすごいもっといい教育環境が、堅苦しくないような教育環境ができるんじゃないかなって感じた。あとその学校の中に1型糖尿病の子どもがいた。僕としてはそういう病気を持っているから、すごい心配になってしまうが、本人は結構明るい感じで、元気そうで、ちょっと体調悪い時間もあったが、基本的には明るく、学校生活も楽しんでいるし、周りの子どもたちもそれを理解して、しっかりサポートしている感じがしたので、子どもだからといって、周りの大人が常に見ていないと心配なのかなと思ったが、その周りの子どもたちもしっかりこう見てくれている感じがあったので、それはすごくいい経験というか、みんなに、全体にとって、すごくいい勉強にもなるんじゃないかなと。思いやりとかそういう意味でも、そういうのを感じた。私事だが、サーフショップを経営しており、そのサーフィン大会がこの前の日曜日に行われた。遠くは埼玉県から来られたり、年齢は61歳から下は10歳の延岡の小学生まで参加していて、50歳ぐらい離れている年齢でも同じ土俵で切磋琢磨する姿とかもすごいよかったし、年齢関係なく同じ目線で楽しめている姿がすごくいいなと思った。知っている方もいると思うが、昨年この大会で死亡事故があり、僕の人生の中でそんなことが起きるっていうのはもう本当に信じられなかった。もちろんすごく落ち込んだし、やっと1年経って、それをみんなで乗り越えたっていうのがすごい大きかったなあって、僕だけじゃなくて、参加したみんなすごいショックを受けていたので、それを乗り越えたのがすごく大きかったなと思った。これも起こったことなんで仕方がないのだが、経験としてはすごい自分にプラスになったというか、プラスにしないと、その故人に申し訳ないなっていう気持ちもある。

甲斐委員) 毎月学校教育課から、生徒指導に関する事務報告があって、いじめとか不登校とかの話がある。11月30日の夕刊デイリーに県がまとめたものが出ていた。小学校が今県内で230校、中学校が118校と高校が42校

あるそうで、その中で、不登校で今学校を休んでいるのが3187人という発表が出ていた。たとえて言うなら、延岡の中学校16校が3000人ぐらいたが、この中学校の人数の人が、県内の中で休んでいるっていうことでちょっとショックだった。全国的には42万8752名って書いてあったが、これもたとえて言うなら、宮崎市の人口が全滅っていう、そんな状況で、なぜなんだろうなと考えていたら、その原因が書いてあった。子どもの休養の必要性が浸透したっていうことだそうである。それと、コロナ禍以降の、無理に登校しなくてもよいという意識変化が生じたことなどが影響した可能性があるとかって書いてあった。しかし何かまだまだ具体的なそんな答えは、この問題には出てこないとは思いますが、非常に心の痛む記事だったなと思う。昨日は西階幼稚園の訪問に行った。初めて幼稚園の訪問に行ったが、先生は非常に分かりやすく、また気が長く、そして優しく子どもさんたちに対応されている。ダンゴムシの雄と雌の見分け方っていうのも、72歳になって初めて知った。糞の色は何色かっていうのも初めて知った。折り紙でダンゴムシを作るって言うから、どんなダンゴムシができるんだろうと思ったら、簡単なものだったが、とても楽しかった。園長先生とちょっと話をしたが、困ったことはいっぱいあるそうである。なぜ困ったことがいっぱいあるかって言ったら、やっぱり職員の方が皆女性だっていうこと。樋にゴミが溜まっている。梯子をかけて取れば簡単なことなんだろうけども、女性だからやっぱり恐ろしい。それで、保護者の方に協力をしてと言ったら、もし落ちたらどうなるんだろうっていうことで、怪我したりしたらとか、やっぱり女性特有の先を見た考え方で、控えめなことであった。いろんなその問題って、女性の先生方がほとんどだから、ちょっとしたことができないのは歯痒さっていうのがあるっていうことで言われていた。ああいうところには、ちゃんと話を聞くっていうか、女性だからなかなかそれをズバツと言えないそうである。もっと聞く耳を持ってあげたらいいかなって思った。それと、自分が話している机の横にパンが積んであって、何ですかと聞いたら、子どもたちが食べる給食のパンだということで、そこにあった。お弁当は、月曜日と火曜日がパンだけで、水木金がお弁当持ってきて、パンのときには副食で家から何か持ってくるっていうそんな給食のスタイルであった。そこあたりが、小学校が隣で給食があるのに、公立幼稚園は給食がないっていうか、なんか偉い寂しい問題だなって思った。それと、職員室の中に保健室っていうか、ベッドがあった。あれなんですかって言ったら、子どもが体調が悪くなったらそこに寝かせてっていうことだった。小学校中学校に学校訪問すると保健室に先生がいて、きちっとしてある。幼稚園は見放すことができないから、先生の職

員室の中にあるんだろうけども、例えば衝突があって、プライベートなことだから、静かに寝かせてあげる場所づくり、環境づくりっていうか、そういうのもあっていいのではないかなって自分は思った。諸問題いろいろあるようである。よろしく相談に乗ってもらえるようお願いする。

高森教育長) 最初に宮田委員から、新採2校目で新採4年目5年目の先生の研修の話があったが、そもそも昨年度メンタルダウンで休む先生が、その年代の方が特に多くて、延岡に初めて来て、知らない町で、今までの友達もいないということで、この研修を始めて、今年度はいわゆるその年代の方方でメンタルダウンで休みに入るっていう方は今のところいない。ある程度成果が出ているかもしれない。それから遠田委員が言われたC先生の話。このような70歳とか、一昨日表彰されたD先生のような80歳以上の方々の話を4年目5年目の先生に聞かせるっていうのを、今報告を聞いて、つないでいくと面白い研修になるのかなというふうに思ったところであった。

◆各課からの事務報告

- 学校教育課長から、11月14日の新しい学びプロジェクト全国大会や15日の学びの多様化学校入室希望者説明会、18日の弁護士による学校巡回法教育、19日の学びの多様化学校体験学習・個別相談会、10月期の生徒指導に関する状況等について報告があった。

- ◎) アスリートタウン推進課の事務報告にある磐田市との交流事業について、今日市長表敬があるが、もう少し詳しく教えてほしい。
- ⇒) この磐田市交流事業については、ちょうどこの今月の事業報告の中でも上のほうに書いてあるが、静岡ブルーレブズというジャパンラグビーリーグワンという日本ラグビーの最高峰でプレーしているチームが、7年連続で、今年も7回目の合宿を延岡でしていただいた。この静岡ブルーレブズの本拠地が静岡県磐田市にあり、こういったトップチームが延岡で合宿している間、もちろん、ラグビークリニックとかそういったことを行っていたているが、直接磐田市と延岡市の子どもたちの交流できないものかということで、磐田市やチームとも協議して、令和4年から、今回で4回目になるが、ラグビーをやっている中学生の相互交流を実施している。今年は延岡市の中学生と指導者を含めて20人が磐田市に行って、向こうの静岡ブルーレブズの本拠地のグラウンドで練習したり試合をしたり、向こうのチームとこの中学生とで試合をしたりしている。また、磐田市には日本最古の木造の洋風校舎、

見附学校という、国の史跡にも指定されている学校があるが、そういった学校を見学させてもらったりとか、静岡ブルーレヴズの大株主がヤマハ発動機なので、バイクとかの製造場所とか、そういったところも見学させてもらったり、ラグビーだけじゃなくて、社会見学等もさせていただく事業を行っている。それに参加する中学生と指導者が、今日市長を訪問して、意気込みなり、そういったことを語ってくれるものと考えている。

◎) 社会教育課の事務報告で、11月4日の地域と学校の未来創造ミーティングについて教えてほしい。

⇒) 地域と学校の未来創造ミーティングについて、主催は宮崎県教育委員会の生涯学習課の方で実施されたもので、延岡市の社会教育センター、カルチャープラザで開催された。目的としては、コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進の理解や実践への動機づけを通して、学校や家庭、地域の連携、協働の推進に資するというようなことを目的として開催されているものである。11月4日の午後1時20分から4時20分までと、3時間かけて開催され、参加者は、各小中義務教育学校、県立学校の職員の方、北部教育事務所の方々。それと、それぞれの学校の学校運営協議会の委員の方、地域学校協働推進の方、各市町村の学校教育の行政担当の方、生涯学習・社会教育の行政の担当の方、それと、社会教育関係団体として、婦人会や子ども会等々の方も参加いただいている。中身としては、生涯学習課の方から、コミスクと地域学校協働活動の重要性などの話があり、先進事例として広島県府中市のコミスクの協議会の会長や、当市の教育課程研究センターの方の話があった。その後、それぞれグループに分かれて、地域の未来、学校の未来のために、今、私たちにできることということで、グループ討議が行われた。また、今後コミスク等、地域学校協働活動の理解と推進に資するものとして、有意義なものであったと思っている。

◎) 学校教育課も所管しているところがあるので、情報共有をお願いしたい。

◎ 議 事

◆議案第23号 延岡市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定（学校支援課）

- 学校支援課長より、熊野江小学校を令和7年度末、南浦中学校を令和8年度末をもって廃止する条例改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第 24 号 延岡市公民館条例の一部を改正する条例の制定（社会教育課）

- 社会教育課長より、社会教育センター・カルチャー施設の受付業務において、条例と実際の運用とを揃えるため等の条例改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第 25 号 延岡市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定

（学校教育課）

- 学校教育課長より、夏休み等の長期休業期間を変更するための規則改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第 26 号 延岡市立幼稚園規則の一部を改正する規則の制定（学校教育課）

- 学校教育課長より、学校と同じく、幼稚園における夏休み等の長期休業期間を変更するための規則改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第 27 号 指定管理者の指定〔延岡市北方南部地区体育館〕（北方分室）

- 北方分室長より、延岡市北方南部地区体育館の指定管理者の指定について説明が行われ、異議なく承認された。

◎ 協議事項

◆みやざきフェニックス・リーグの概要と本市での開催に向けて

（アスリートタウン推進課）

- アスリートタウン推進課長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。

○本市では現在、来春の完成を目指して、西階公園に新しい野球場を整備中である。新しい野球場は、令和 9 年開催の国民スポーツ大会において、ソフトボールと軟式野球の会場となる。またこの野球場についてはプロ野球の試合を開催するための規格だとか、十分な機能を備えてあるので、宮崎県内で毎年 10 月に行われているみやざきフェニックス・リーグの誘致に現在取り組んでいる。

○今年 22 回目を迎えたこのフェニックス・リーグについては一般社団法人日本野球機構、いわゆる N P B、日本プロ野球、それからイースタンリーグウェスタンリーグ、それとみやざきフェニックス・リーグ支援実行委員会が主催している。期間は、今年だと 10 月 6 日から 27 日までの 22 日間、参加チームはプロ野球のセ・リーグ、パ・リーグの合計 12 球団と、オイシックス新潟アル

ビレックスベースボールクラブ、くふうはやてベンチャーズ静岡、この2チームについては、昨年の2024年に新しく誕生して、それぞれイースタンリーグ、ウエスタンリーグに参加している新しいチームである。それと韓国プロ野球からハンファイーグルスと斗山ベアーズと、4球団で構成されている四国アイランドリーグの選抜チーム、それと、東日本を中心に展開されているルートインBCリーグと九州アジアリーグと北海道フロンティアリーグと3つの独立リーグの選抜チーム、合計18チームが参加して、このリーグが開催されている。開催地については、宮崎市、日南市、西都市、都城市、日向市で行われている。試合については、この22日の期間に156試合が予定されている。ただ、雨天で中止する場合がある。なお試合の観戦はすべて無料となっている。

○このプロ野球のファン拡大と、このみやざきフェニックス・リーグを盛り上げるために、試合以外にいろんなイベントが実施されている。昨年は162試合の予定だったが、雨が多くて62試合が中止となっており、100試合しか行われていない。まず始球式について、いわゆるプレイボール前に投げるイベントだが、これは一般応募は県内外から440名あり、94名が当選している。傾向として、応募は人気球団の試合に集まっているので、応募の少ない試合や、また、全く応募のない試合もある。来年以降延岡で開催される場合には、ぜひ教育委員の皆様、事務局の皆さんに応募いただければと思っている。

○また、試合終了後に、プロ野球の選手とそのファンがキャッチボールを行うイベントが、昨年は1回だけ行われており、参加者は200名となっている。土日に行われることが多いイベントである。次に、オンユアマークスという、4歳以上中学生以下を対象に一般公募するもの。これは、テレビや実際に球場で見られた方のご存じかと思うが、試合開始前に、ホームチームの選手がそれぞれ守備位置につくときに、子どもたちと一緒に、ちょっと選手と触れ合っているシーンを見たことがあるかと思うが、そのことである。実際フェニックス・リーグでも、昨年は4回オンユアマークスが行われて、プロ野球選手と実際に触れ合うという貴重な機会の提供があっている。

○また試合終了後、両チームの選手は、試合だけではなくて、基本的にその球場に残って、球場または第2球場、屋内練習場等で練習をすることになるが、その様子を、スタンドからではなくて、ベンチとか実際にグラウンドの中で見ることができる。昨年は2試合、やはりこれも土日とか祝日に行っているようだが、このイベントが行われている。その他、資料にはないが、協賛社のスポンサーゲームとか、トークショー、チャリティオークションなども、期間中には行われているようである。

○次に、試合を行うにあたって、こういった動きがあるかというところを紹介する。我々市職員や観光協会、球団のスタッフの動きについて、まず球団チームとしての動きは、幹事と言われる球団のチームが大体7時ぐらいに球場に来

る。ホームチームの方は8時に到着して準備して打撃練習を始める。相手チーム、ビジターチームは9時半に来て練習等を始める。試合開始は、概ね12時半ぐらい。3時間ぐらいで試合を終わるが、先ほど申し上げたように、試合終了後2時間ぐらい練習をするので、チームが球場から撤収するのは大体17時半ぐらいということになる。今のチームの流れを踏まえた上での実行委員会とアルバイトの動きについて、まずこのアルバイトは大体1日8名程度必要と言われている。期間中だと大体30人から40人確保する必要があると言われている。この実行委員会は、まず球団スタッフが大体7時半には来るので、実行委員会も7時半までには集合することになる。またアルバイトは早番遅番というふうに分かれており、早番が8時半まで、遅番が10時までに来て、それぞれ球団のスタッフや実行委員会の指示のもと、それぞれの役割を分担することになる。11時から電光掲示板など、そういった試合開始前の準備を行い、12時から打撃練習等で、打撃練習後のグラウンドを整備する。試合開始後は、観客席等での問題はないかなど、定期的に巡回を行う。先ほど申し上げたが、試合開始に必要な人員として、ボールが外に出たり、ファールなどを拾うボールボーイが4から6名。BSOというのはストライク、ボール、アウトなどの表示をする係が1名と得点表示が1名。あとスタンドにボールがいった場合とか、回収する役割として2から4名が必要とされている。15時半ぐらいに試合が終わったら、今度は練習用のゲージ設営とか、選手両チームが使った食堂の後片付け、各諸室の後片付け等の作業を行う。最終的にアルバイトは帰って、概ねスタッフが撤収する時間は毎試合19時頃になるようである。

○今回のフェニックス・リーグ誘致の目的について資料にあるので読み上げたい。『アスリートタウンを標榜してまちづくりを展開する延岡市。毎年、サッカーやラグビーなど多くのプロスポーツのキャンプや大会が実施されている中、来春に「新西階野球場」が完成する。日本プロ野球全12球団が一堂に集う「みやざきフェニックス・リーグ」を通じ、これまで以上に「アスリートタウンのべおか」を全国に発信し、新しい野球場を舞台とした野球・ソフトボール競技のキャンプ・大会の誘致に繋げるのみならず、その他のスポーツ競技による市内スポーツ施設への波及効果を期待するとともに、スポーツキャンプ・大会を通じた観光客誘致を図ることを目的としている。』また、我々としては延岡の子どもたちにプロ野球の試合を見せたいという思いも強く持っている。

○これまでの誘致に向けての動きについて、昨年の5月にみやざきフェニックス・リーグ支援実行委員会、これは主催者の1団体だが、加入させていただいた。この支援実行委員会というのは、このリーグの主催ではあるが、会長を宮崎市のスポーツランド推進課長が務めており、副会長は県の観光協会の総務企画スポーツランド推進局長、そして宮崎県、宮崎県観光協会をはじめ、各開催

自治体の市と観光協会などで構成されている。毎年10月のリーグが始まる前に歓迎レセプションというものが行われる。この歓迎レセプションでは、NPBの関係者、また18球団の監督スタッフをはじめ、主催者側である宮崎県知事、各開催市の市長、また関係者等が集う。その場で、昨年は延岡市の紹介をさせていただき、また、野球場や延岡市の野球環境についてPRさせていただいた。また、先ほど申し上げた各球場の1日の流れをはじめ、各球場のハード、ソフトの運営状況等の視察もさせていただいた。令和7年度においても同様に10月の歓迎レセプションに参加して、PR、また、各球場の運営状況などを視察させていただいたところである。

○今後の開催、誘致に向けた予定について、早速来月、NPBに対して、コミッショナー宛になるが、西階公園野球場をフェニックス・リーグの開催球場としていただくように、要望書を提出することになっている。すでに実行委員会としては、NPBに対して延岡市を開催地として欲しいという意向は伝えている。また、今年の歓迎レセプションにおいて、三浦市長からNPBの関係者に対して同様の意向をお伝えしているところである。NPBからの意思の決定については、来年度、令和8年の5月に通知があると聞いている。そこで、実際に西階公園野球場が会場となるかどうか、また何試合行われるかとか、その辺りが決まるものと考えている。それを受けて、6月に必要な予算の計上を考えている。何試合か分からないが、延岡でフェニックス・リーグの試合を開催することができれば、10月にまたみやざきフェニックス・リーグが開幕ということになる。ただ、最後に課題について書いているが、実際フェニックス・リーグを誘致するには、延岡をホームチームとするチームを誘致する必要がある。なかなかプロ野球122球団はキャンプ地もあるし、もう長年22回も続いているフェニックス・リーグなので、宮崎市や都城市、日南市などで、それぞれ拠点を持っているので、現在独立リーグとか、そういった辺りのチームに、今打診をしているところである。また運営スタッフについては、市のアスリートタウン推進課はもちろんだが、観光協会の連携、そしてアルバイトには九州医療科学大学の野球部や一般の方の確保をする必要がある。当然ながら延岡市が会場となることのPR、そして宿泊施設や飲食関係等の連携が必要と考えている。まずはこれらの課題の解決に努め、フェニックス・リーグの確実な誘致に尽力して、今後はアスリートタウンのPR、さらに地域の活性化につなげていきたいと考えている。そして延岡でプロ野球の試合が見られるような環境づくりに努めたいと考えている。

- ◎) 延岡市内でも少年野球が活発に行われていると思うが、結果等をタ刊デイリーで拝見させていただく中で、最近ちょっと思うことは、合同チームで出ているチームも何チームかあるということ。これは

子どもの数が少なくなっているっていうのもあるだろうし、野球に対する人気の問題もあるかなあと思うが、やはりそういったスポーツの啓発っていうことを考えたときに、立派な野球場もできることだし、子どもたちにそういったプロ野球っていうようなものを実際に見る機会が増えていくっていうことは、野球を始めスポーツの振興には繋がっていくのかなあとは個人的には思っている。私も野球が大好きだが、ぜひこのフェニックス・リーグが延岡で開催されるといいなという個人的な感想を持っているところである。

◎) 今まで 22 回開催されているってことだが、他の開催地の経済効果などはどれくらいあるのか伺いたい。

⇒) この経済効果については、明確には出ていないが、県が野球だけではなく全体のすべてのキャンプについての経済効果というものを年間で出すが、あの中には含まれている。ただ先ほど申し上げたように、観戦が無料であることと、私もびっくりしたのだが、雨天中止とか、平日の昼間に行われているとか、そういった状況もあるが、平均の観客動員数が 200 人。サンマリンは 3 万人入るが、どんな宮崎の小さな球場でも基準 1 万人ぐらいの収容人数は設けているにもかかわらず、大体 200 人。我々も何回か視察に行ったが、ガラガラなので、この 2 年間視察等させていただいて感じているのは、なかなか運営する側が開催することで手一杯で、なかなか PR の方に手が回っていない。実際私も宮田委員と同じく野球は大好きなのだが、そんなにフェニックス・リーグの情報が入ってこないなので、少なくとも延岡市においてはその辺の PR をしっかり行っていきたいと考えている。

◎) 僕は今宮崎市の方で週に 2 回か 1 回ぐらい、初動負荷トレーニングというトレーニングの店長としてジムに行っている。そこは宮崎のキャンプのときなど、イチローさんがずっと今でもやっているトレーニングなんで、野球選手もたくさんやっている。そこに、宮崎でこれからのキャンプシーズンとかにも、結構プロ野球選手も来られるし、独立リーグの宮崎サンシャインズの方も結構来られる。そういう繋がりがあるので、もし何かあったら協力できればと思う。

⇒) ぜひいろんな意味で受け入れのところのサポートをしていただければと思う。ぜひお願いしたい。

◎) 野球の試合は日曜日じゃない平日にやっていると同じだが、そのときに、子どもたちの参加はどうなのか。今からの子どもたちが興味を持って行ってくれると繋がっていくのかなって感じる。

- ⇒) 我々が視察に行ったときでも、平日に行った際には、もちろん子どもたちの歓声がほとんどない。プライベートで土日に行ったときにはもちろん家族連れとかいるが、これは無料でやっているとおりに、目的が触れ合いではなく、野球選手の若手育成とか、そういったことに重きを置いているので、なかなか野球の普及のところは、先ほど説明したように、試合の後のキャッチボールとかプロ野球選手と触れ合うことで普及には繋げていると思うが、経済効果の面では、なかなかそこがちょっと支援実行委員会としても歯痒さを持っているようである。そこはちょっと工夫をしていかないといけないなと感じる。
- ◎) 雨天中止が結構あると伺った。そういうときに、例えば雨だったらこういうイベントを室内でちょっと軽くイベントをしましょうとか、そういうのを延岡市側で決められるのか。それとも、こちらがいろいろ何か融通を利かせた企画みたいなのを練って作ったものをこっちが言う通りにやれるのか、どうなのか。こっちで決められるんだったらいろいろ何かやりようがある。
- ⇒) そこは最初に私もこの実行委員会の中で質問したが、やはりNPBが、あくまでも日本プロ野球が主催で、地元の自治体の意見はなかなか通らない。もちろん要望はしているようである。元々フェニックス・リーグの開催条件としては屋内練習場が必須で、こういった中止があるので、球場まで行っても中止だったら、選手たちはもう帰るしかないので、そこで屋内練習場があれば練習ができるので、必ずフェニックス・リーグの各会場には、屋内練習場はマストということになっている。委員が言われたように、チームにはせっかく延岡に来ていただくので、例えば土日だったりした場合には、子どもたちに喜んでもらえるような何らかのイベントに繋がれるような要望は行っていきたいと思う。
- ◎) 例えば一昨年かその前だが、ラグビーのブルーレブズの方はサーフィンに来た。そういうのももし何かあれば、雨天中止とはまた別の話だが。
- ⇒) 一昨年のブルーレブズの合宿の際は、チーム側から延岡で行えるアクティビティはないかという質問があり、そこで延岡のサーフィンとか島野浦のクルージングとかゴルフとか、そういったことを提案させていただいた中で、サーファーの方もやっぱりいて、自分のサーフボードを持ってこようかって言う方もいて、その時は委員にもいろいろ相談させていただいた。

◎ その他

◆12月定例会教育委員会の日程について（教育政策課）

- 12月定例会教育委員会については、12月24日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（15時10分）